

■ OnAir 2500 Modulo / OnAir 1500 ユーザーレポート

株式会社日経ラジオ社 様

OnAir 2500 Modulo - 12 / OnAir 1500 - 12

ラジオNIKKEI

大阪支社移転に伴い STUDER OnAir シリーズを採用



株式会社日経ラジオ社
編成制作局 クロスメディア編成部
高橋 玲王奈

導入のきっかけ

2011年10月下旬、ラジオNIKKEI大阪支社が入っているビルの取り壊しを、突然ビル管理会社から言い渡されました。明け渡しは翌年4月末。それまで移転計画をしていた訳でもなく、移転まで半年しかありません。支社には大小2つのスタジオが存在し、生放送こそないものの、医学関係の番組や競馬番組の素材編集、本社との掛け合い番組等の収録があり、ほぼ毎日使われています。音声卓は設置してから数年が経過しており、ケーブル類は端子にハンダ付け状態であるため、それを取り外し移転先に設置するのではあまりにも時間が掛かり過ぎです。しかも自社工事。実は本社も移転計画があり、全ての卓を廃棄してしま



うのはあまりにも勿体ないので、数年前に更新したアナログ卓を支社に移設する計画を立てていました。が、しかし、支社の移転が突如決まりその計画も撃沈してしまいました。支社には技術員が存在しないことから、使い勝手の良いアナログ卓を考えましたが、仕様作成⇒発注⇒製作⇒納品までにはあまりにも時間が無く、アナログ卓の導入はあきらめ、他局でも導入され、コストパフォーマンス・使い勝手の良さ等、巷でも噂を耳にする、STUDER殿のデジタル卓に目を向けた次第です。

導入理由

支社の仕様合う卓はあるか？調べていると、主に収録を行うスタジオにはOnAir 2500、編集を行うスタジオにはOnAir 1500が候補に上がりました。フェーダー数も手頃を選択できます。弊社ではSTUDER製卓を導入するのは初の事であるため、デモ機を借用してイジリ倒し、営業ご担当者を質問攻めにし、かつ困らせ、結果、各設定を施すことで我々の要求、支社の仕様合うことが分かりましたので、導入を決定しました。また、OnAir 2500に関してはセパレートタイプとし、特注テーブルとの組合せにより、より使い易い形式を導入させていただきました。

導入後の感想

これらの卓はパネル表面に無駄なボタンが無く、支社制作者はフェーダーの上げ下げだけを行えば収録（録音ボタンはあえて手動とした）できるようになっているため、制作者からは使いやすいと感想を貰っています。本社では使用者が多岐に渡る為、前者が使用した後、マイクの音が上がらない、スピーカーから音が出ない等、技術に駆け込んでくる輩が多く、当初付属のタッチパネルでの設定変更が行われなかった不安があったのですが、使用者側も安易に触って訳が分からなくなってしまうのは困るので、触らないようにしているとのこと。因みにスナッチショットには、基本・対談・編集・放送を割り当て、マイク増設・生放送時の送返し切換・本社との掛け合い番組等、それぞれのシーンに容易に対応できる様にしました。困った時は電源のリポートでデフォルト設定に戻ってくれるのも有難いです。

最後に

この場をお借りしまして、質問攻めから導入・設置に至るまでご尽力賜りましたスチューダー・ジャパンブロードキャストの営業・技術ご担当諸氏に厚く御礼申し上げます。